

RSウイルス感染症の検査について

【届出に必要な検査所見】

- ★分離・同定による病原体の検出（PCR法）
 - ★迅速診断キットによる病原体の抗原の検出（抗原キット）
 - ★中和反応又は補体結合反応による抗体の検出（抗体検査）
- ⇒かつては臨床診断もできず、確定の方法がなかったが、現在は3種類の検査方法あり

※2018年の感染研の報告では、設備等の観点から日常臨床の場での使用は非現実的とされていたPCR法だが、コロナ禍を経て現在はメジャーな検査方法の1つとなっている。
(感度が高く、必ずしも活性あるウイルスの感染状態を反映しない可能性を考慮)

RSウイルス感染症の予防策

- ・【経路別感染対策】大人はマスク着用し、咳やくしゃみの際は腕の内側で口を押さえるなどの咳エチケットが可能な子供は実施する。加えて、手洗いうがいなどの基本的感染対策が有効。
- ・【感受性者との隔離】年長児や大人は再感染では感冒様症状又は気管支炎症状のみとなり、RSウイルス感染症と気付かないこともあるため、症状がある場合は可能な限り乳幼児との接触を避ける。